

科目名	家族看護学特論 Discussions on Topics in Family Nursing
授業形態	講義(80%)、演習(20%)
標準履修年次	1年次
実施学期・曜時限等	春学期AB 曜時限 応談 5月15日は慈恵医科大学での講義
単位数	2単位
担当教員名	涌水 理恵 小澤 典子 非常勤講師: 児玉 久仁子
ティーチングフェロー(TF)・ ティーチングアシスタント(TA)	
オフィスアワー等	オフィスアワーは特に定めないが事前にメール連絡をしてアポイントメントをとること 涌水 理恵 riwaki@md.tsukuba.ac.jp 小澤 典子 nozawa@md.tsukuba.ac.jp
授業の到達目標 (学習成果)	(1)家族看護が国内外で発展してきた過程と家族看護が求められてきたあるいは求められている時代的背景および課題を述べることができる。 (2)家族を支える保健医療福祉の制度と体制の現状と課題を、具体的に述べられる。 (3)今後の家族看護の役割と位置づけを、家族員の健康障害の査定、家族の査定、健康障害に対するキュアとケアを融合した看護介入、家族への看護介入、チーム医療への参画と調整といった観点から、具体的に述べられる。 (4)家族支援専門看護師として、家族看護の領域に関わる他職種とのコーディネーターの役割を理解し、家族看護の領域でのコンサルテーション及び教育の具体的方法がイメージできる。
他の授業科目との関連	発達看護学演習、家族看護学特論
履修条件	
授業概要	保健医療福祉制度を含む家族環境の中で、家族看護が国内外で発展してきた過程と家族看護が求められている時代的背景および課題を理解し、家族看護専門看護師として、家族を取り巻く社会や地域、保健医療制度の調整や変革ができる能力を養う。
キーワード	家族看護、各領域・各ステージにおける家族看護、領域横断的コーディネーター
授業計画	1(未定)(家族看護学特論の概説)(涌水・小澤) 2(未定)(看護学における「家族」の概念1)(涌水・小澤) 3(未定)(看護学における「家族」の概念2)(涌水・小澤) 4(未定)(家族を理解するための諸理論1)(涌水・小澤) 5(未定)(家族を理解するための諸理論2)(涌水・小澤) 6(未定)(家族看護学の発展過程と保健医療福祉の制度および体制)(涌水・小澤) 7(未定)(家族のストレス対処力 Sense of Coherence)(涌水) 8(未定)(家族の逆境下成長と家族看護)(涌水) 9(5/15)(家族看護に求められる看護師の役割:在宅の場における役割)(児玉・涌水) 10(5/15)(家族看護に求められるチーム医療:早期療育の促進)(児玉・涌水) 11(未定)(高齢者の家族を支える:保健医療福祉の制度と体制の現状)(涌水) 12(未定)(老親介護、家族介護を支える:保健医療福祉の制度と体制における課題)(涌水) 13(未定)(現代家族像と家族環境—今求められる家族看護学)(小澤) 14(未定)(慢性症状を呈する患者の家族を支える)(小澤) 15(未定)(現代家族像と家族環境—今求められる家族看護2)(小澤) 16(未定)(妊娠期・出産期・産後期の母親と家族を支える)(小澤) 17(未定)(現代家族像と家族環境—今求められる家族看護3)(小澤) 18(未定)(がん患者と家族を院内で地域で支える)(小澤) 19(未定)(家族看護をめぐる最新の研究動向と社会情勢)(小澤) 20(未定)(地域で障がい児者の家族を支える:保健医療福祉の制度と体制の現状)(小澤)
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	講義(24時間)、演習(6時間) 事前に課題を行い、プレゼンテーションの準備およびクリティークの準備を万全にして授業に臨む。 毎回プレゼンテーションをしたのち、ディスカッションを実施する。 授業外でも、学生同士で授業内容の活用方法の討論を活発におこない、日頃から関連文献を検索・精読し、授業内容について、積極的に思考する態度をもつ。

成績評価方法	<p>15コマ以上の出席と最終評価が60点以上が単位主要要件である。</p> <p>成績評価方法および評価配分は以下の通り。毎回、プレゼンテーション(50%)、ディスカッション(50%)で、到達目標の達成度を以下の基準に基づいて判定し、全20回分の平均をとって成績を評価する。</p> <p>評価基準は以下の通り。</p> <p>到達目標の1～3を指導に従って大旨達成できればC以上と判断する。</p> <p>到達目標の1～3を指導に従って大旨達成できていると判断されればB以上と判定する。</p> <p>到達目標の1～3について優れていると判断され、4が達成できていると判断されればAと判定する。</p> <p>到達目標の1～3について非常に優れていると判断され、4が達成できていると判断されればA+と判定する。</p>
教材・参考文献・配布資料等	随時紹介・随時配布する。
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	やむを得ず欠席する場合には事前に必ず申し出ること。やむを得ず欠席する場合には事前に必ず申し出ること。30分を過ぎた遅刻は欠席とみなす。